

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )  
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

↑  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	同法人内のこども園の園児との交流を持ち老人と子供の共生という独自の理念をつくりあげている		子供達の訪問回数を増やし、癒しの時間を多く持てるようにする
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	受容、尊敬、共生の理念を理解し、共有しながら実践にむけて取り組んでいる		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族会や運営推進委員会などに「ありがとう便り」を配布し、理解してもらえるように努めている		ありがとう便りは月1回発行できればよいと思う (現時点では年4回)
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的な付き合いはないが、近所の人から手作り野菜をもらったりしている		野菜を届けてくださる人は生活行事の中で食事会に招待し利用者との時間を楽しんでもらっている
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	市主催の芸能祭、文化展など参加できる人は年々少なくなった		出かけられる人は限られるが、地域の人達より合唱、よさこいなどホームへ来てもらっている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	特別な取り組みはしていない		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度の外部評価で指摘された事項は改善している		外部評価の意義をよく理解し改善すべき点は話し合い改善している
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者やサービスの実態、評価への取り組み状況については報告している		運営推進会議で気軽に意見を出し合えるよう会議形式だけでなく行事に併せて開催したこともある
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	適宜管理者が連絡をとっている		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度について職員は理解しているが、現時点でその制度を必要とする利用者はいないので知識もあまりない		利用者に必要となった時、支援できるよう研修を受けたい
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は虐待防止について理解しており、防止に努めている		高齢者虐待防止については研修を受けた職員もいるが、機会があれば順次研修を受けたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、管理者から家族に十分説明を行い理解を得ている</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>その都度職員の判断で対応しているが、職員で対応できない事については管理者、又は事業主側へ相談することもある</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>近況報告、ありがとう便り、金銭出納帳のコピー等を送付している 健康面で変化があった時はその都度報告している</p>	<p>ありがとう便りや近況報告は家族に喜ばれているので今後も継続する</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情・相談箱を設置し、苦情受付相談者、解決責任者を決めている 今の所、苦情は寄せられていない</p>	<p>気軽に苦情・相談ができるよう家族との信頼関係を深める</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議等で意見や提案を聞く機会を設けてある</p>	<p>職員会議は出来れば全員参加の勤務体制にしたい</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>限られた人数であるが、何とかやりくりして確保している</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動はなるべくしないような配慮をしているが、職員の離職によりやむを得ず行う時は利用者への影響を考慮して最小限の異動にとどめている</p>	
18-2	<p>マニュアルの整備</p> <p>サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。</p>	<p>各種マニュアルがあり随時見直しを行っている</p>	<p>全職員が完全に理解できるようなマニュアルの整備を行う</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員が段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている</p>	職員の勤務の関係で参加できないことが多い	できるだけ多くの職員が研修を受けられるようにする
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	今のところ綿密な交流の機会はない	他施設と交流を持ち相互訪問、見学したい
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	観桜会、暑気払い、忘年会、新年会など親睦会を行いストレス軽減に努めている 休憩室の確保、私物を収納するロッカータンスの設置など環境も整えている	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	職員は日々一生懸命働いている 又、向上心を持って働けるよう評価を受けている	向上心や意欲を引き出すべく手当をつけている
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	利用申し込み時、又はそれ以前の見学、面接等で本人と家族より話を聞き、不安なことなどを受け止めるよう努めている	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	家族との面接時や利用後の面会時、よく話を聞いて不安なことや要望があれば受け止めるようにしている	面会時、家族と職員が気軽に話せるような雰囲気づくりに努める

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者、計画作成担当が家族と面談しその後、カンファレンス等でどのような支援が適切かを検討している		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に何回か足を運ばれ、職員や他の利用者、その場の雰囲気に納得され利用となる		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	会話を通して本人の生きかたを知り、共に喜び、哀しみを受け止め支え合う関係を築いている 利用者と職員は家族という考えの元で支えあっている		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族とは電話連絡、近況報告等により一緒に本人を支えるような関係を築いている		面会時はできるだけ家族とのコミュニケーションをとり、よりよい支援が行われるよう努める
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族と本人との関係をよく理解した上で本人の日常の様子を家族に知ってもらい、より良い関係が築けるよう支援している		"
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問時には快く話しができるよう配慮し、温かく迎えている 思い出の場所へドライブしたり、知人、友人への手紙の代筆をすることも		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士トラブルが起きたりすることもあるが、できるだけ孤立しないように一緒に関わり支え合えるよう努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了で関係の切れる方が多く、継続的な関わりを必要とする利用者や家族はいない		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り本人の思いや意向に近づくよう努力しているが、本人の意思が確認できない人もある		職員の考えで事を運ばず利用者の思いを知る努力をする
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報シート、本人や家族からの聞きとりなどで生活歴や馴染みの暮らし方、サービス利用の経過の把握に努めている		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	バイタル測定、言動などにより体調を把握し体調に合わせて一番良い方法で一日が過ごせるよう努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、計画作成担当を中心に各職員の意見も取り入れ介護計画を立てている		課題や目的、ケアのあり方など職員が情報の共有に努めている
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の実施期間は設けてあるが、終了前や状況が変化した時は随時カンファレンスを行い見直しをしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタル測定、排便表、食事摂取量などチェックし日々の様子や健康状態を把握し共有している		日々の様子、健康状態など記載もれのないようにし、介護計画の見直しに活かす
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービス、グループハウス、こども園と行事がある時など交流している 特にこども園園児達とのふれ合いは喜ばれている		笹団子作り、芋煮会、餅つき大会など事業所全体が行う取り組みは継続したい
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署の協力で防災訓練、非常通報訓練などしている 民俗学に詳しい人の協力を得てふるさとの生活、伝承文化などを聞く機会がある		消防署の協力で防災訓練など継続する
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	事業所内にある支援センターのケアマネジャーに相談することはあるが、他のサービスは利用していない		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	間接的ではあるが協力を受けている		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院があり、毎月の定期往診と急病、体調不良時は往診してもらっている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	家族と相談しながら協力医院の指示や助言をうけ、更に必要ならば認知症に詳しい医師の治療を受けている		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	同一法人内の他事業所に常勤看護師がいるので毎日利用者の様子を観察したり、時にはバイタルチェックを行い健康管理をしている 急病など変化があった時はすぐ連絡をとっている		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	退院に関しては病院の指示を受けている 早期退院ができず、やむなく退所の方におかれた人の家族には次の受け入れ先が決まるまで連絡を取り合い情報交換をしている		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族とのはっきりとした話し合いは特にないが、グループホームで対応が困難になった場合を考え、特養ホームへの利用申し込みを勧めている		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末は病院で迎えるケースが多い		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ケア関係者間で十分な話し合いを行いダメージを防ぐことに努めている		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自分自身では気づかずに言葉づかい、対応(排泄)などの点で少し配慮に欠けることもあるかもしれないが今後は注意したい ケース台帳などの記録書類は事務室で管理して個人情報保護を徹底している	プライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないよう職員ひとりひとりが充分に気をつける
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	職員との会話の中から本人の思いや希望を引き出し自己決定できるよう支援している	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り利用者優先しているが、ひとりひとりのペースと希望といわれても難しいこともある	レクリエーションの時間は職員の考えが優先しがちになるが、入居者の希望に添って支援したい
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	無関心な人が多いので職員と一緒に選んだりして、その人らしい身だしなみができるように支援している 理美容は本人の望む所があれば送迎しているし、出張もしてくれる	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	高齢化、重度化により手伝いのできる人は少ない 職員も一緒に同じテーブルで食べ、楽しい雰囲気できょう気配りしている	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	タバコは禁煙となっている おやつ、飲み物などはなるべく好みに合わせるようにしている 酒は本人の健康状態、家族の意向も取り入れ時々出すことがある	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間をみての声かけから後始末とひとりひとりに合わせて支援している 紙パンツの使用はさけたいが、重度化により避けられない人もいるがこまめに交換し衛生面に配慮している		できるだけトイレでの排泄を支援している プライバシーを考えて言葉かけをしている
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	安全を第一に考え、ゆっくりと入浴を楽しめるよう支援 湯の温度は好みに合わせている 入る順番も公平になるようにしている 入浴時間帯については希望通りにはならない		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	室温、照明に配慮している 日中は居間で自由に休息できる		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ADL低下のため自分の役割としてできるのはごく一部の人のみ 洗濯物たたみ、モップ掛けなどをしてもらっている		結果を問わず、軽作業(ゴミだし、モップを持つ)など一緒に動くようにしている
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	物忘れ、紛失などの問題があり、自分で管理できる人はいないが、希望があれば預かり金の中から職員同行で買物ができるよう支援している		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	できるだけ外出の機会を作っているが重度化が進み希望する人はあまりいない 散歩、ドライブなど外へ出られるよう支援している		職員数に余裕があればひとりひとりの希望に添えると思う
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	花見、温泉の足湯など外出の機会を作っているが、体調不良、歩行困難などで参加できない人もある		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が望めば電話はいつでもできる 手紙はなかなか書けないため代筆している		電話は拒否的な家族もあるので、家族の理解と協力が欲しい
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問でき、和室、居室など好きな場所で過ごしている		職員は笑顔とあいさつに気を付けている
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてはよく理解しており、拘束のないケアをしている		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵はかけていない(5時～21時) 玄関、裏口ともセンサーが取り付けがあるので出入りするとチャイムが鳴る		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の所在確認は常にしているが時には利用者が一人で外へ出てしまうこともある		所在確認をし安全に配慮する
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物類や消毒液など利用者の目に触れず手の届かないところに保管している		漂白剤、消毒液など使用後は元の場所へ戻しておく
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止について職員個々に学び努力している		各自、事故防止対策マニュアルに目を通し知識を身につけ、それぞれの状態に応じて対応できるように努める

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルや訓練はしているが急変や事故が起きた場合、適切な対応ができるかどうか不安		定期的に訓練と学習する機会を設け知識を身につける
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災を想定した消防署への通報訓練や避難誘導訓練も行っているが、高齢で身体機能低下している人が多いため夜間は不安である		緊急連絡網による職員の招集や地域住民の協力が得られるよう働きかける
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクについては常に家族に説明している		ADLの低下に伴ないリスクも多くなるが、家族はADLの低下について理解できないところもあり、面会時本人の様子などを理解してもらいたい
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタル測定を記録し体調変化や異常の発見に努め、情報共有し速やかに対応できるようにしている		連絡、情報共有の強化
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用などよく理解している 薬は職員が管理し、服薬を確認している		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便表で排便状況を確認している 便秘にならないよう、適度に身体を動かしたり水分補給を促している		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後声かけし口腔ケアを促しているが、時には応じてくれない人もいる 磨き残しある時は介助をしている		促すだけでなく口腔ケアが済んだか確認できない時は介助をする

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックと水分補給を促す 粥にしたりきざみ食にしたり、ひとりひとりの状態に応じた食事を提供している		入浴後は必ず水分補給をしている
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種は利用者、職員全員接種済み 手洗い、うがいの徹底 床、ベッド回り、手すり等の消毒をしている ノロウイルスの嘔吐物の処理について研修を受けた		感染症マニュアルに添って予防に努める ノロウイルスについてはいつ発生し嘔吐しても対応できるよう、手袋、マスク、エプロンなど用意ができています
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫、調理器具等の消毒、食材の管理や賞味期限のチェックをしている		食材の入荷時、賞味期限、鮮度をチェックしている
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関が三枚戸で出入りにくいが、観葉植物や花鉢を置いて親しみやすい雰囲気にかけている		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冬は和室にこたつを置いたりして季節感ができるように工夫している		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室、ホール、居室と思い思いに過ごせる		共有空間をうまく使うために仕切りのあるコーナーなどの工夫が必要

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、ベッド、チェストなど今まで使っていた家具などを置き、本人にとっては居心地よく過ごせるようにしている		四季が感じられるような野の草花など好きな場所に飾ったりする
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気や温度調節には気をつけている 冬場は乾燥しすぎないように時々窓を開け、換気と湿気に気をつけている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室の介助バー、居室の手すりなど自立した生活が送れるよう工夫している		ひとりひとりの状態に合わせ、手すりなど設置する
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	排尿間隔を把握し、事前に声かけ誘導したりトイレや居室の入り口に目印となる飾りを表示している 手作りの日めくりカレンダーなども貼ってある		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	自分でベランダを活用できる人はいないが、天気のよい日は外回りを散歩したり玄関前のベンチで日光浴やお茶タイムなどしている		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

同一敷地内にこども園、学童保育ルームなどがあり、子供達の元気な声が聞こえ、元気な姿が見える。時折り園児が訪れ触れ合いを楽しんでいる。広い敷地は緑豊かで環境がよく、四季を通じ散歩が楽しめる。地域に残っている生活文化を伝承し、四季の生活行事に取り入れている。